

むかし

ひと

昔の人はかなり健脚！

交通手段が発達していな

でした。

かった時代、人々はどのくら

鎌倉時代は、複数の紀行文

いの速さで移動していたので

から鎌倉から京都まで徒歩で

しょうか。約1200年前の

12〜14日間、1日で静岡市、

平安時代の法律では、1日あ

富士市くらいの距離を移動し

たりの徒歩での移動は約27

ていたことが分かります。江

戸時代初期も同程度でした。

毎日約8時間歩き、それを持

岡市から島田市までと同じ

続けるのですから、現代から

くらいです。ただし、移動は

見るとかなりの健脚だったと

税の運搬など、国の命令によ

いえます。

る用事に限られ、庶民が自由

一方で、緊急事態が起こった

に旅をすることはできません

場合、幕府の通信業

務を担う「継飛脚」は

宿ごとに飛脚が交代

.....

「東海道五十三次之内

草津 名物立場」

(1833〜34、歌川広重、

静岡市東海道広重美術館蔵)

し、江戸〜京都間を3日間で

文書を運んだとされます。

また、「かご」も使われるよ

うになりました。1701

年、江戸城で浅野内匠頭が

吉良上野介を斬りつけた事

件を知らせるために「早か

ご」が使われました。4人

かごを担いでリレー形式でつ

なぎ、江戸から兵庫県の赤穂

まで約600キロを4日半で

走ったとされます。早かごは

走る方も必死でしたが、かご

の中の客も振り落とされな

いよう、天井から垂れるひも

をしっかり握る様子が浮世

絵に残されています。

徳川家康が街道を整備

し、さらに宿場や馬を留め置

く駅舎の設置を制度として

整えました。だからこそ、



「早かご」などの移動方法が広がり、庶民も安全に旅ができるようになるなど交通が発展したのです。